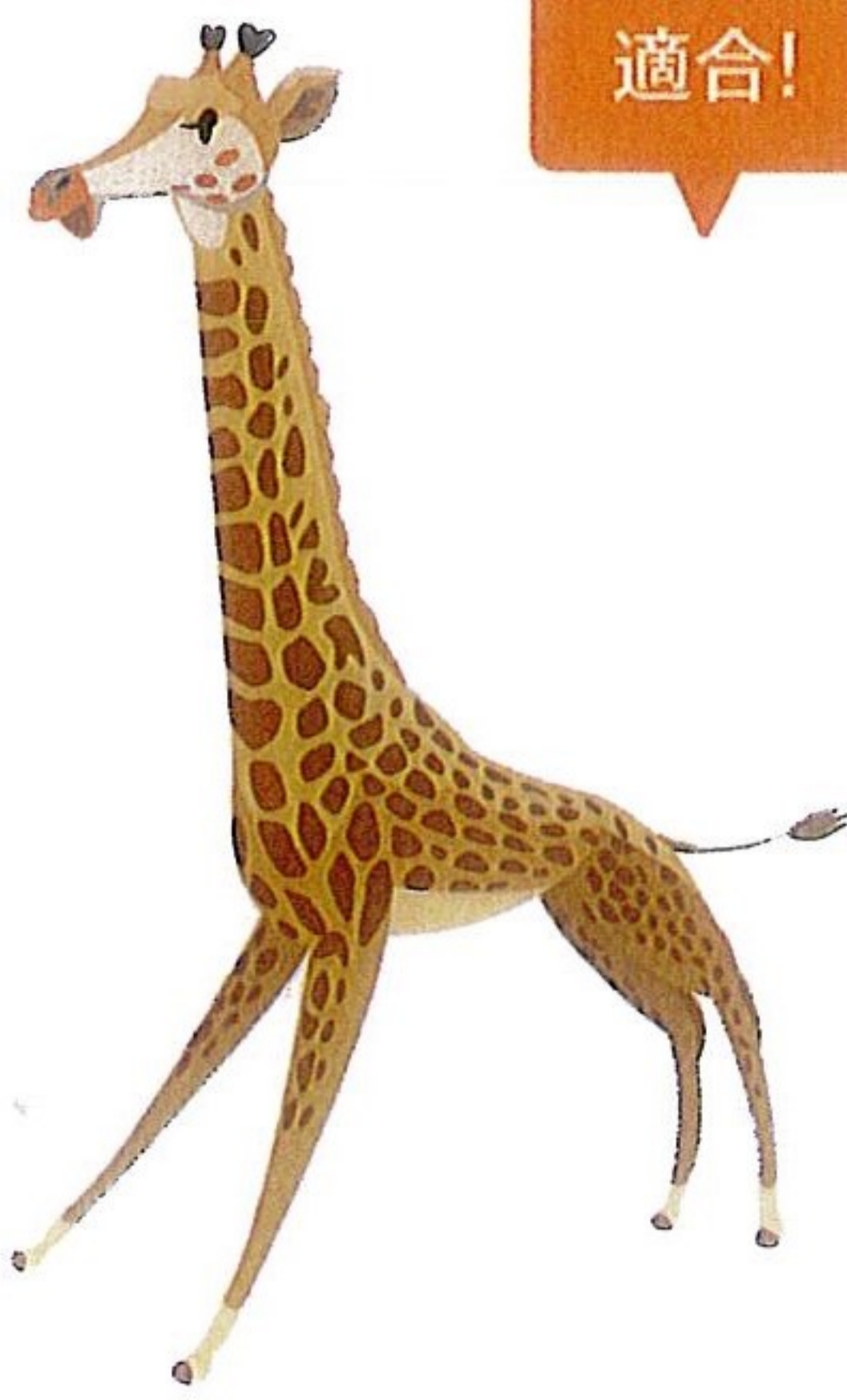


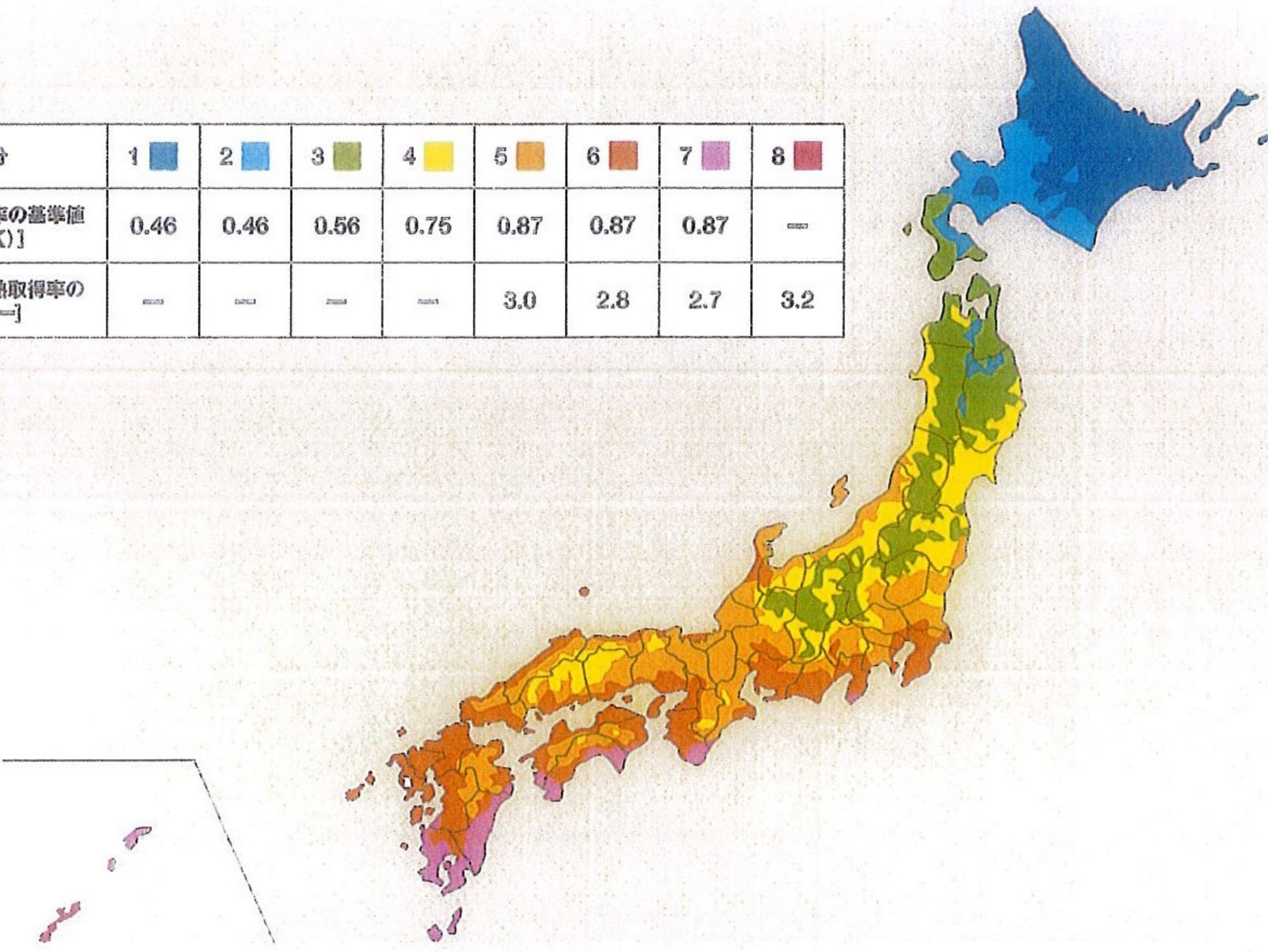
【物件名】 A 号 邸
 【シミュレーション日時】 2014/11/28
外皮性能計算プログラム (Thermal-C)
 シミュレーション結果

外皮平均熱貫流率(UA)	0.53	W/m ² K
冷房期の平均日射熱取得率(ηA)	1.7	%
単位温度差あたりの外皮熱損失量(α値)	180.7	W/K
単位強度あたりの冷房期日射熱取得量(mC値)	6.07	W/(W/m ²)
単位強度あたりの暖房期日射熱取得量(mH値)	10.06	W/(W/m ²)
熱損失係数(G値)	1.88	W/m ² K
夏期日射取得係数(μ値)	0.066	



外皮性能基準

地域区分	1	2	3	4	5	6	7	8
外皮平均熱貫流率の基準値 [W/(m ² K)]	0.46	0.46	0.56	0.75	0.87	0.87	0.87	—
冷房期の平均日射熱取得率の基準値 [%]	—	—	—	—	3.0	2.8	2.7	3.2



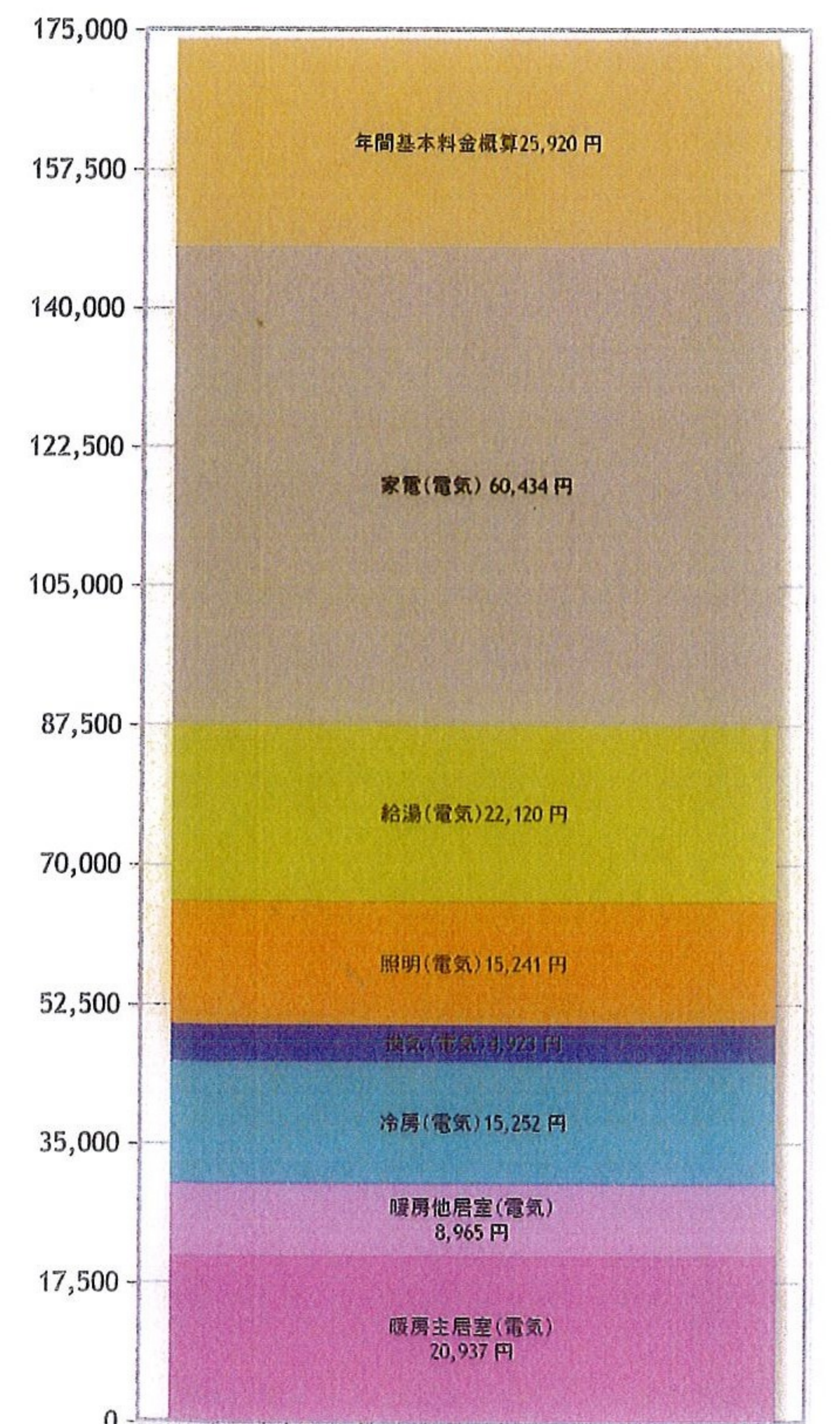
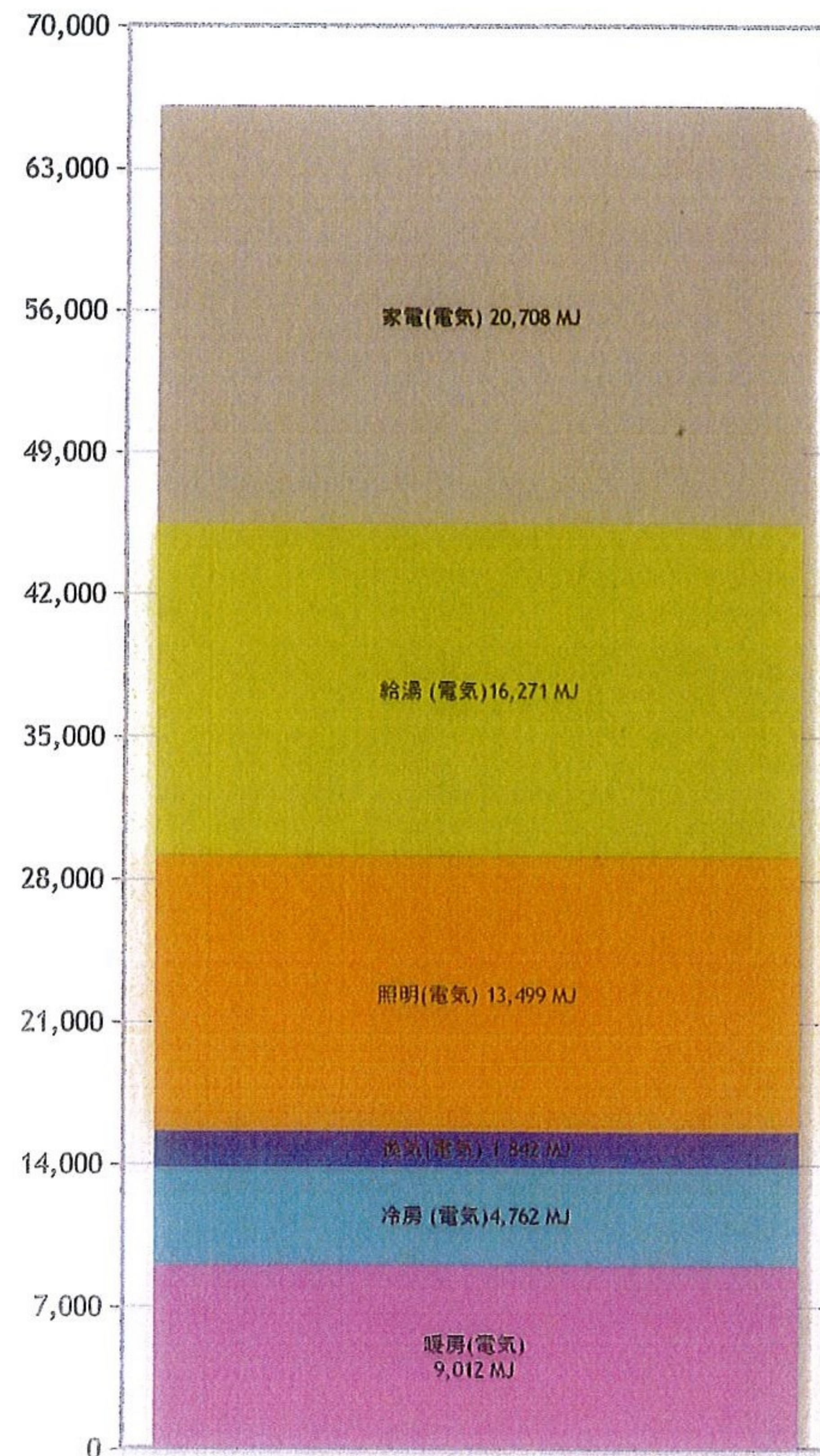
※「適合/不適合」は、あくまで省エネ基準に対する判定です。自ら目標値を設定し、それに合致するかを判断してください。

【物件名】 A 号 邸
 【シミュレーション日時】 2014/11/28 20:14:21
光熱費計算プログラム
 シミュレーション結果

光熱費の結果が何に影響されているかを把握することが重要です。Thermal-Cの入力内容やWEBプログラムで選択した内容との関連をよく見てください。

一次エネルギー消費量 MJ/年

費用 円/年



https://eye.energy-zoo.com/EnergyZoo/BUILDING_ENVELOPE_PERFORMANCE/BUILDING_ENVELOPE_PERFORMANCE_TABLE.aspx?_comp_i... 1/1

【物件名】 A 号 邸
 【シミュレーション日時】 2014/11/28 20:14:21
光熱費計算プログラム
 シミュレーション結果

モデルケースシミュレーション結果
 光熱費合計(消費分) **184,461円** = 発電による発電売上 **0円** = 年間光熱費予想額 **184,461円**

電気	消費量(kWh/年)	費用(円/年)
暖房(主居室)	646.516	646.516
暖房(他居室)	276.844	8,966
冷房	487.91	15,253
換気	188.73	4,924
照明	1,383.094	15,242
給湯	1,657.111	22,121
家電	1,803.463	60,434
IH コント	318.238	10,665
年間基本料金概算		25,920
小計	6,771.926	184,461
発電分	0	0
合計	6,771.926	184,461

一次エネルギー消費量の計算結果について

住宅/住戸(タイプ)の名称	A 号 邸
作成日	2014年11月29日



凡例 ★★★ 低炭素建築物認定基準相当 (平成24年告示基準) ★★ 省エネルギー基準相当 (平成25年告示基準) ★☆☆ その他

■注釈
 ● 本表は、告示基準※に基づき、一次エネルギー消費量計算結果(住宅)を示したものです。
 ● 一次エネルギー消費量は、一定の前提条件(想定居住人数、生活スケジュール等)のもとで算定する仕組みとなっているため、算定結果は実際の一次エネルギー消費量とは必ずしも一致しませんので、当該住宅の省エネ性能評価に当たってはご注意ください。
 ● 設備を設置しない場合及び設置する設備の種類が決まっていない場合については、標準的な設備を設置したものと仮定して計算されています。

※「エネルギーの使用の合理化に関する建築主等及び特定建築物の所有者の判断の基準」(平成25年経済産業省・国土交通省告示第1号)及び「建築物に係るエネルギーの使用の合理化の一層の促進その他の建築物の低炭素化の促進のために留意すべき基準」(平成24年経済産業省・国土交通省・環境省告示第119号)

■一次エネルギー消費量とは
 ○用語
 ● 化石燃料、原子力燃料、水力・太陽光など自然から得られるエネルギーを「一次エネルギー」、これらを変換・加工して得られるエネルギー(電気、灯油、都市ガス等)を「二次エネルギー」といいます。
 ● 建築物では二次エネルギーが多く使用されており、それぞれ異なる計量単位(kWh、ℓ、MJ等)で使用されています。それを一次エネルギー消費量へ変換することにより、建築物の総エネルギー消費量を同じ単位で求めることができるようになります。
 ○一次エネルギー消費量による表示について
 ● 低炭素社会の実現に向けた省エネルギー性能の指標とするため、最終的に消費される二次エネルギー量ではなくエネルギー資源の消費量を表す一次エネルギー消費量を基準として用いています。
 ● 日本の省エネルギー基準においては、一次エネルギー消費量の単位として熱量の単位であるJ(ジュール)を用いることとしています。※1MJ(メガジュール)=0.278kWh(キロワット時)